

新年最初の豆知識 日本の財政を考える

新年最初の豆知識！国会では、色々論議されていますが、もっぱらお金のことで物議を呼んでいます。ここで少し日本の財政を考えてみましょう。

財務省が作っている「これからの日本のために財政を考える」と言う冊子に載っていますので、その中の一部をご紹介します。冒頭に、

『**高齢化が急速に進み、社会保障関係費は年々増加しています。**

一方、財源は確保できておらず、子供たちの世代に負担を先送りし続けています。現在、この先送りの状況を打開し、持続可能な仕組みを次世代に引き渡すため、様々な取り組みを進めています。次世代に明るい未来を残すために私たちに何ができるのか一緒に考えてみませんか？』

と綴られています。それから本題には、

『**◆日本の財政状況◆高齢化で増え続ける社会保障関係費**

◆持続可能な社会保障制度の構築に向けて◆財政健全化に向けて』

などの現状分析、問題点、それに向けての改善などが記されています。

問題点として社会保障関係費が高くなっていることが挙げられていますが、少子高齢化が大きな要因になっています。増大する社会保障とは**年金、介護、医療、子ども・子育て**などの分野に分けられ、国の一般会計歳出の約1/3を占める最大の支出項目になっています。保険料のみでは負担が現役世代に集中してしまうため税金などで補っていますが、これらの多くは借金に頼っているのが現状で、私たちの子や孫の世代に負担を先送りしている状況です。財政健全化に向けて政府は「経済あつての財政」との考え方の下、**デフレ脱却・経済再生**と共に、財政健全化に向けしっかりと取り組んでいます。ポイントとして財政健全化目標として、2025年度国・地方を合わせた**プライマリーバランスを黒字化**。同時に、債務残高対GDP比の安定的な値下げを打ち出しています。

政府の政策について編集長の独り言、国民はインフレに備えて自己の預貯金の自然な目減りしないように投資も考えてみてください。参考資料：財務省発行財政を考える2022年

リスクトランス新聞

No.43号

発行所

お客様第一委員会

国ではNISAを推奨しているが、保険でも投資できる。

国では積立NISAを推奨していますが、生命保険会社でも取り扱っている変額保険という保険は、皆さまご存知でしょうか？積立NISAとかiDeCoのように長期の定額積立投資（ドルコスト平均法）を行い、老後の資産形成だったり、もしもの時の保障だったり幅広い安心を提供しています。保険会社ごと、商品によって内容は違うものの、主だった保障内容は死亡保険だったり、3大疾病保障保険だったり、年金だったり様々ですが、運用者ご本人のニーズにあった保障内容をお選び頂いて投資することができます。

編集長の独り言

論語に学ぶ第五談

「人を知らざるを患う」

書き下ろし文：子曰く、人の己を知らざるを患（うれ）へず、人を知らざるを患（うれ）ふ。

現代文：人が自分のことを正しく理解してくれないことを思い悩んでもしかたない。それよりも、自分が人を正しく理解していないことを心配すべきである。

【解説】

意味は現代文のとおりですが、別の解釈もあります。それは、「自分が人から認められないというのは、自分の悩みではない。認められるような点がない、ということこそ悩みである。」これは、吉川幸次郎氏の解釈です。いずれにしても、経営者にとって非常に教訓となる章句です。なぜ社員は自分の言うことを理解してくれないのだ。という社長は多いと思います。しかしそれは憂うべきことではなく、自分が社員のことを理解してないことを憂うべきだ、ということです。

◀取扱代理店▶



株式会社 リスクトランス

〒700-0941 岡山県岡山市北区青江1-7-15 営業時間 平日9時～18時

Risk Trans. Tel.086-235-1110 Fax.086-235-1120



作成日2024.2.20

過去発行分は弊社ホームページにて公開しています。リスクトランス

このチラシは概要説明したものです。詳しい内容につきましては、取扱代理店までお問合せください。

(引受保険会社)
損害保険ジャパン株式会社
SOMPOひまわり生命株式会社
第一生命株式会社
メットライフ生命株式会社